

平安・鎌倉の風俗画・物語絵

■ 指定記号のうち、◎は国宝、◎は重要文化財、○は重要美術品を示しています。

番号	指定	名 称	摘 要	時代	材 質	法 量 (cm)
1	◎	一字蓮台法華経	普賢菩薩勧発品	平安後期	紙本著色・墨書	26.0×322.2
2		病草紙断簡		平安後期	紙本著色	13.8×17.9
3		平治物語絵巻断簡	六波羅合戦巻	鎌倉	紙本著色	17.3×15.3

桃山・江戸の風俗画

4		輪舞図屏風	六曲一隻	江戸前期	紙本金地著色	96.8×265.6
5		風俗図扇面貼交屏風	二曲一隻 扇面5面 岩佐派	江戸前期	紙本著色	幅33.5～34.5
6	○	阿国歌舞伎草紙	絵2段(茶屋遊び・念仏踊) 詞書1段	桃山	紙本著色	18.6×27.7ほか
7	◎	婦人像		桃山	紙本著色	50.0×38.3
8		舞妓図		江戸前期	紙本著色	77.3×27.6
9	○	美人図	宮川長春筆 寛政9年(1795)川上不自後賛	江戸中期	紙本著色	90.7×34.9
10		美人図	司馬江漢筆	江戸後期	紙本著色	82.9×24.2
11		婦女弹琴図	信口筆	桃山	紙本著色	55.2×36.9
12	◎	婦女遊楽図屏風	松浦屏風 六曲一双	江戸前期	紙本金地著色	各155.6×361.6
13		伝東山天皇像		江戸中期	絹本著色	72.0×36.9
14		維摩居士像	狩野山雪筆	江戸前期	紙本墨画	115.8×44.4
15		寒山図	俵屋宗達筆	江戸前期	紙本墨画	97.0×42.1
16		東山第一楼勝会図画帖	山口素絢筆ほか 寛政11年(1799)	江戸後期	絹本著色ほか	各30.9×30.9
17		海浜漁夫図	司馬江漢筆 寛政11年(1799)	江戸後期	絹本墨画淡彩	30.5×31.0
18		僧形歌仙図	俵屋宗達筆	江戸前期	紙本墨画淡彩	19.0×20.4
19		僧正遍昭落馬図	英一蝶筆	江戸中期	紙本著色	27.6×53.8
20		春秋鷹狩茸狩図屏風	岡田為恭筆 六曲一双	江戸後期	紙本著色	各152.6×359.0
21		古画縮図(人物)	狩野探幽筆	江戸前期	紙本墨画淡彩	14.2×601.4

桃山・江戸の物語絵

22		忠信次信物語絵巻	2巻	桃山	紙本著色	忠信28.4×753.0 次信28.4×777.6
23		曾我物語図屏風	六曲一隻	江戸中期	紙本著色	129.2×310.3
24		伊勢物語図色紙	伝俵屋宗達筆 六段 芥川	江戸前期	紙本著色	24.6×20.9
25		伊勢物語八橋図	岡田為恭筆	江戸後期	絹本著色	35.6×57.2
26		善教房絵詞模本	岡田為恭筆 天保12年(1841)	江戸後期	紙本墨画	34.2×344.7
27		源氏物語図帖	伝土佐光吉筆 絵6枚 詞書6枚	江戸前期	絵：紙本著色 詞書：紙本墨画	絵(各)24.1×20.9 詞書 23.2×20.4 19.7×20.4

番号	指定	名 称	摘 要	時代	材 質	法 量 (cm)
28		三十六歌仙絵藤原敦忠像	伝岩佐又兵衛筆	江戸前期	紙本著色	29.9×24.1
29		源氏物語図押絵貼屏風	岩佐派 六曲一双 特別出陳 個人蔵	江戸前期	紙本著色	各62.6×38.2
30		源氏物語図屏風	伝岩佐又兵衛筆 六曲一隻	江戸前期	紙本著色	96.5×243.2
31		源氏物語図屏風	岩佐派 六曲一双 特別出陳 個人蔵	江戸前期	紙本著色	各158.0×364.5
32		源氏物語総角図屏風	岩佐派 六曲一隻 特別出陳 細見美術館蔵	江戸前期	紙本著色	152.5×352.0
33		東山三絶図	円山応挙筆 天明6年(1786)	江戸後期	紙本墨画	40.3×81.4
34		七里ヶ浜図	司馬江漢筆	江戸後期	絹本油彩	46.9×72.7
35		春林書屋図	呉春筆	江戸後期	絹本著色	107.8×40.0
36		秋溪訪友図	岡田半江筆 天保14年(1843)	江戸後期	統本墨画淡彩	166.4×64.8
37	○	親鸞上人剃髮図	田能村竹田筆 天保4年(1833)	江戸後期	紙本著色	114.4×43.0

展 観 内 容

人物の姿はつねに絵画の豊かな土壌となってきました。戦乱がおさまった桃山時代になると、都市風俗図が盛んに描かれるようになります。絵師たちは積極的に現実の光景に目を向け、祭礼や演劇、遊里に生動する人物の姿を描きました。風俗画は時代の世相を映します。身に纏う衣装や装身具は、人物の社会的な立場を踏まえながらも、当時の流行を伝え、姿勢や仕草、表情には人柄や気持ちの動きが表れます。華やかな光景を体験したいという人々の願いに応じるように、画中の人物の生動感はより強くなり、描かれた光景の熱狂、雰囲気、情緒が伝えられています。新しい画題は新たな絵画表現をもたらします。臨場感に溢れる都市風俗図の成立は、対照的に田園風俗図にも影響を与えたでしょう。王朝文学を描く物語絵も刺激を受け、やまと絵の伝統にもとづく土佐派だけではなく、狩野派、宗達派、岩佐派の絵師たちが描き、新たな表現が表れてきます。

この展観では、主に桃山時代、江戸時代の絵画から、国宝「松浦屏風」をはじめとする風俗画と、物語絵を中心に展示します。所蔵品の他に、多様な岩佐派の源氏物語図屏風を拝借し、特集展示します。